

事業の背景・目的

本事業は、国内希少野生動植物種に指定され、また近い将来に絶滅が危惧されている亜種アカモズ *Lanius cristatus superciliosus* (以降、アカモズ) について、保険としての種の保存や、遺伝的多様性の維持、更には将来的な野生個体群への増強的導入を可能にするために、域外個体群の確立を目的とした活動を行う。野外個体群への負の影響を抑えるために、2023年度に近縁のモズを用いて、飼育下繁殖技術（自然育雛、人工孵化、人工育雛）およびファウンダー確保のための採卵技術(採卵時期による追卵の有無、卵の輸送方法)の確立と知見の収集に取り組む。また、アカモズ北海道個体群の主な繁殖地である石狩市や長野県と連携し情報を共有しながらアカモズの絶滅回避に向けた取り組みを推進する。

事業の内容

ア) 近縁種モズの飼育繁殖・採卵技術の確立事業

1. 飼育下におけるペアリング・造巢・産卵の条件を特定する。
2. 飼育下および野外巣から得た卵を用いて、最適な孵卵・育雛条件を特定する。野外巣からの採卵にあたっては、時期(第一卵の産卵からの日数や一度に採集する卵数の違いによる野生個体の繁殖への影響を明らかにし、野生個体群への影響が少ない採卵技術を確立する。



イ) アカモズのモニタリング事業
将来的なアカモズの採卵および飼育下個体の放鳥に備えて、アカモズ野生個体群の繁殖状況を調べる。

ウ) アカモズ野生復帰技術確立及び方針の検討事業

野生復帰を行うためのプロトコルの作成や、国外の先行事例の情報収集を行う。検討についてはアカモズ保護増殖プロジェクトとして長野アカモズ保全ワーキンググループや北海道アカモズ保全ワーキンググループと連携して実施する。

得られた成果

- ア) 1. 事前事業で捕獲した成鳥のペアリングを実施した。開始時期が工事の影響で遅れたが現在造巢の確認まで至った。
2. 恵庭・千歳・北広島周辺でモズの卵を採卵し、人工孵化・育雛を行い5羽が巣立ち、現在までに4羽が育成している。今年度の採卵の条件と結果を踏まえ、来年度は野生個体群への影響等の評価をより正確に行う予定。人工孵化・育雛についても、よりふ化率の上がる条件を探るとともに、育雛個体の社会化についても慎重に計画を立て、自然繁殖や野生復帰に寄与できる個体の育雛方法を模索する。
- イ) 石狩・勇払周辺のアカモズの繁殖状況等の調査を北海道大学先崎助教授や日本野鳥の会、調査員の方の協力のもと、実施した。
石狩については繁殖成功率等が安定しており、勇払については渡来数がやや増加傾向にあったが、モニタリングデータが少ないため今後のモニタリングの必要性がある。
- ウ) 関係機関と事前研究事例を参考にアカモズの野生復帰の方針について打ち合わせを行った。近縁種モズにおいて人工育雛個体の飛翔や生餌の狩りの訓練を実施。豊橋総合動植物公園にて飼育施設の視察や、飼育方法や今後の計画について打ち合わせを行った。